

札幌で発見された新属新種のクジラ化石について①

■化石の概要

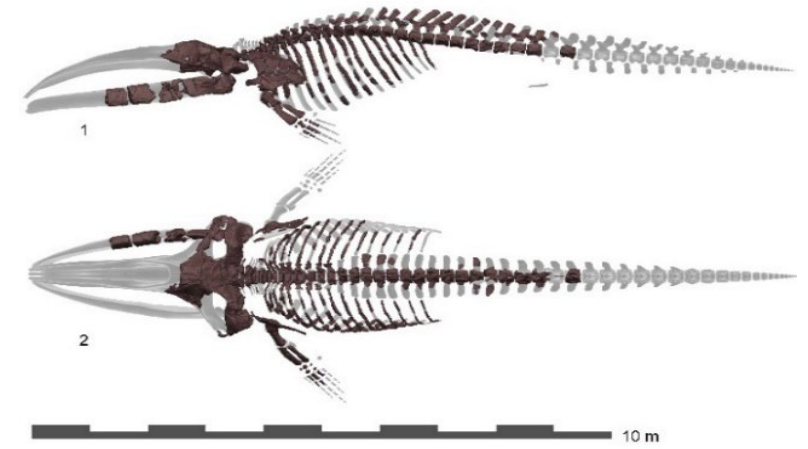
2008年に南区小金湯で
市民が発見し、市が調査・研究

■学名

メガベリーナ・サッポロエンシス
「札幌の大きなセミクジラ」の意

■和名

サッポロクジラ



▲サッポロクジラの骨格



▲生体復元画

札幌で発見された新属新種のクジラ化石について②

■化石の特徴

- ・発見されたことのない**新属新種のセミクジラ**の一種
- ・これまでセミクジラ科の化石が見つかっていない
- ・**「空白期」の約900万年前の化石で進化の過程を埋めるもの**
- ・全身の約7割が保存され、**保存状態の良さとしては世界で唯一**



▲化石年表

■展示場所

- ・札幌市博物館活動センター
- ・北海道大学総合博物館（9月12日～）

●札幌で発見された新属新種のクジラ化石について

2008 年に南区小金湯で発見され、札幌市博物館活動センターが調査・研究を進めてきたクジラ化石が、新属新種であることが判明し、このたび、海外の学術誌に発表されました。この化石は、約 900 万年前のものであり、これまでセミクジラ科の化石が見つかっていない時期の化石であり、新種であるだけでなく、種の 1 つ上の分類群である属レベルでも世界初の発見となります。

今後、企画展などを通じて、クジラ化石の研究成果を広く市民の皆さまへ伝えるとともに、札幌の自然史や北海道の自然の魅力に関心を持っていただける取り組みを進めてまいります。

1 新属新種のクジラ化石の概要

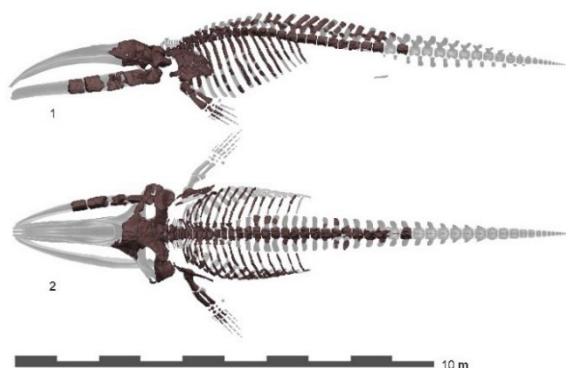
- (1) 学名：メガベリーナ・サップロエンシス (*Megabalaena sapporoensis*)

※「札幌の大きなセミクジラ」の意

- (2) 和名：サップロクジラ

- (3) 特徴

- ・約 900 万年前の化石で、発見されたことのない新属新種のセミクジラの一つ
- ・セミクジラ科の化石が見つかっていない時期（約 1,500 万年前～約 600 万年前）のもので、セミクジラの進化のマイルストーンとなる
- ・肩甲骨や指の骨なども含め、全身の約 7 割が化石として保存されており、世界で最も保存状態が良いセミクジラ科化石
- ・大きさは約 13m と推定される



▲サップロクジラの骨格
(着色部が化石として発見された部分)



▲生体復元画（生きていたときの様子の推定図）
新村 龍也学芸員（足寄動物化石博物館）作

2 展示場所

- (1) 札幌市博物館活動センター（豊平区平岸 5 条 15 丁目）
- ・常設展示にてクジラ化石の一部を展示
 - ・企画展「世界一のセミクジラ化石展」で頭骨のレプリカ等を展示（～8 月 30 日）
- (2) 北海道大学総合博物館（北区北 10 条西 8 丁目）
- ・企画展「クジラの化石展-札幌市博物館活動センターのコレクションより-」で頭骨のレプリカ等を展示（9 月 12 日～）

【問い合わせ先】

市民文化局文化部事業調整担当課（札幌市博物館活動センター） 田中、山田
電話：374-5002、ファクス：374-5014